

日本生理学会アンケート2012の結果報告

日本生理学会・男女共同参画推進委員会

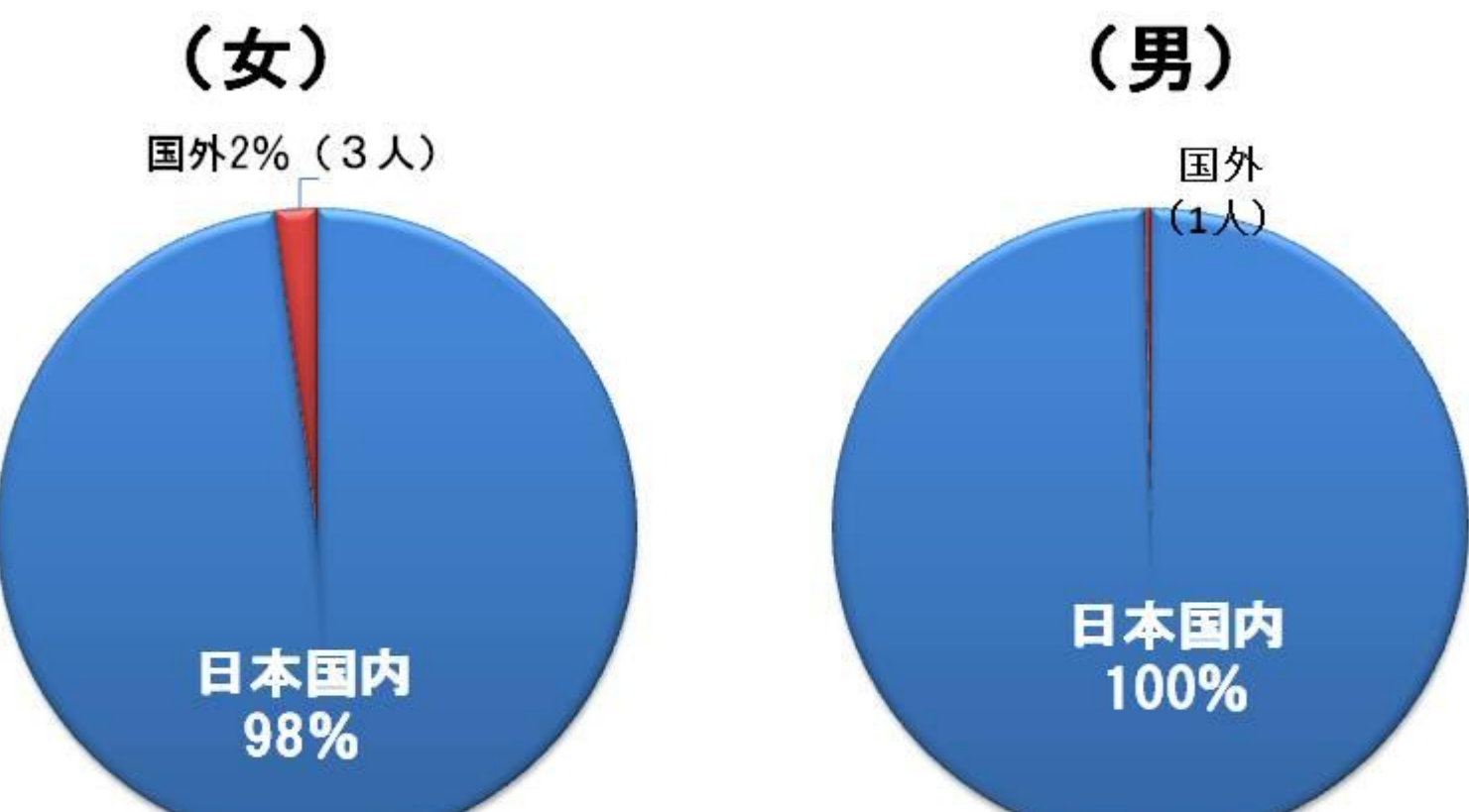
2012年3月、第89回生理学会松本大会でアンケートを実施した。

目的は、生理学分野における女性の割合や現状を明らかにし、将来の男女共同参画の理想的なあり方を模索するためである。

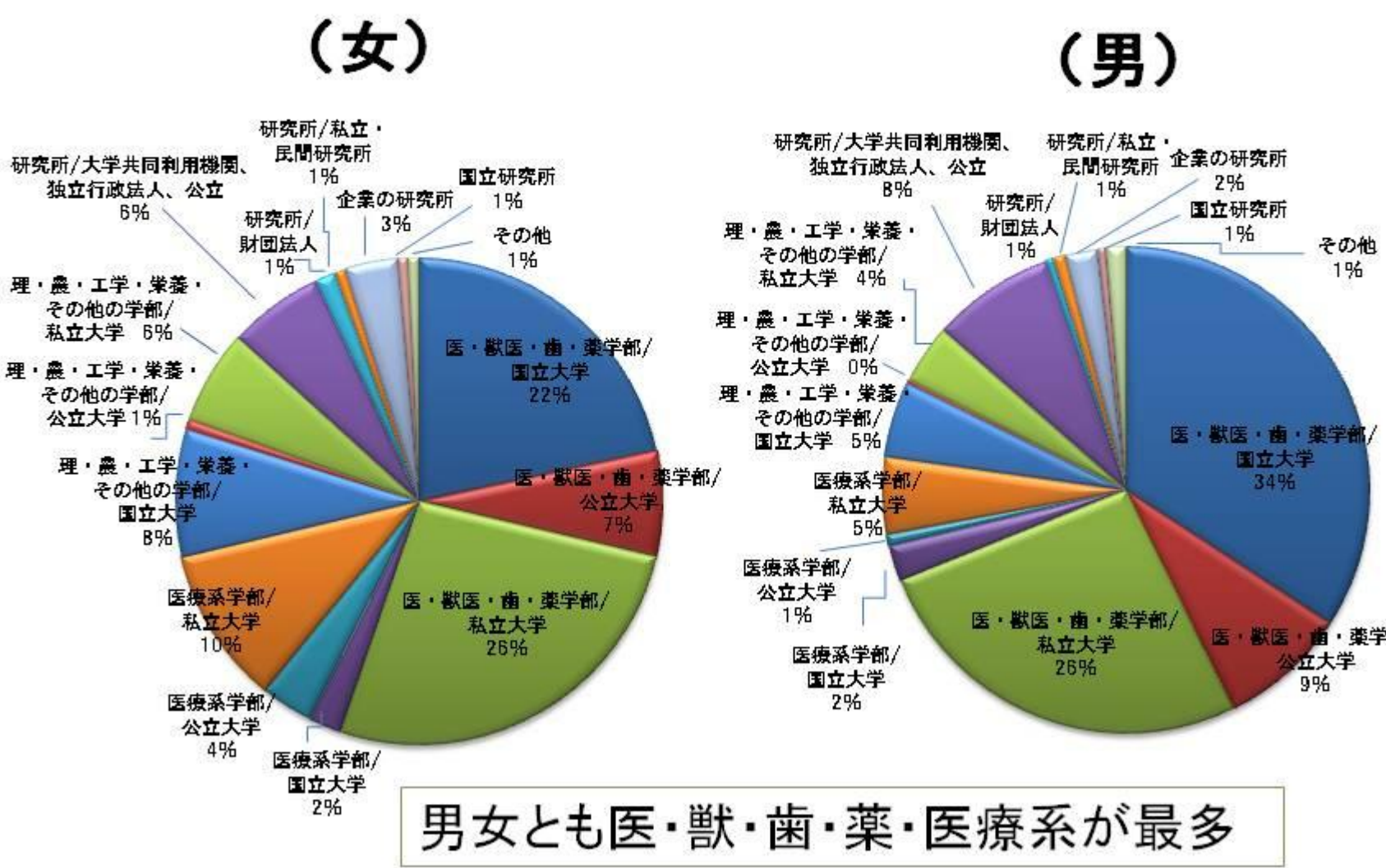


回答者551人、女147、男382
会員2640人、回答率21%
女性32%、男性18%

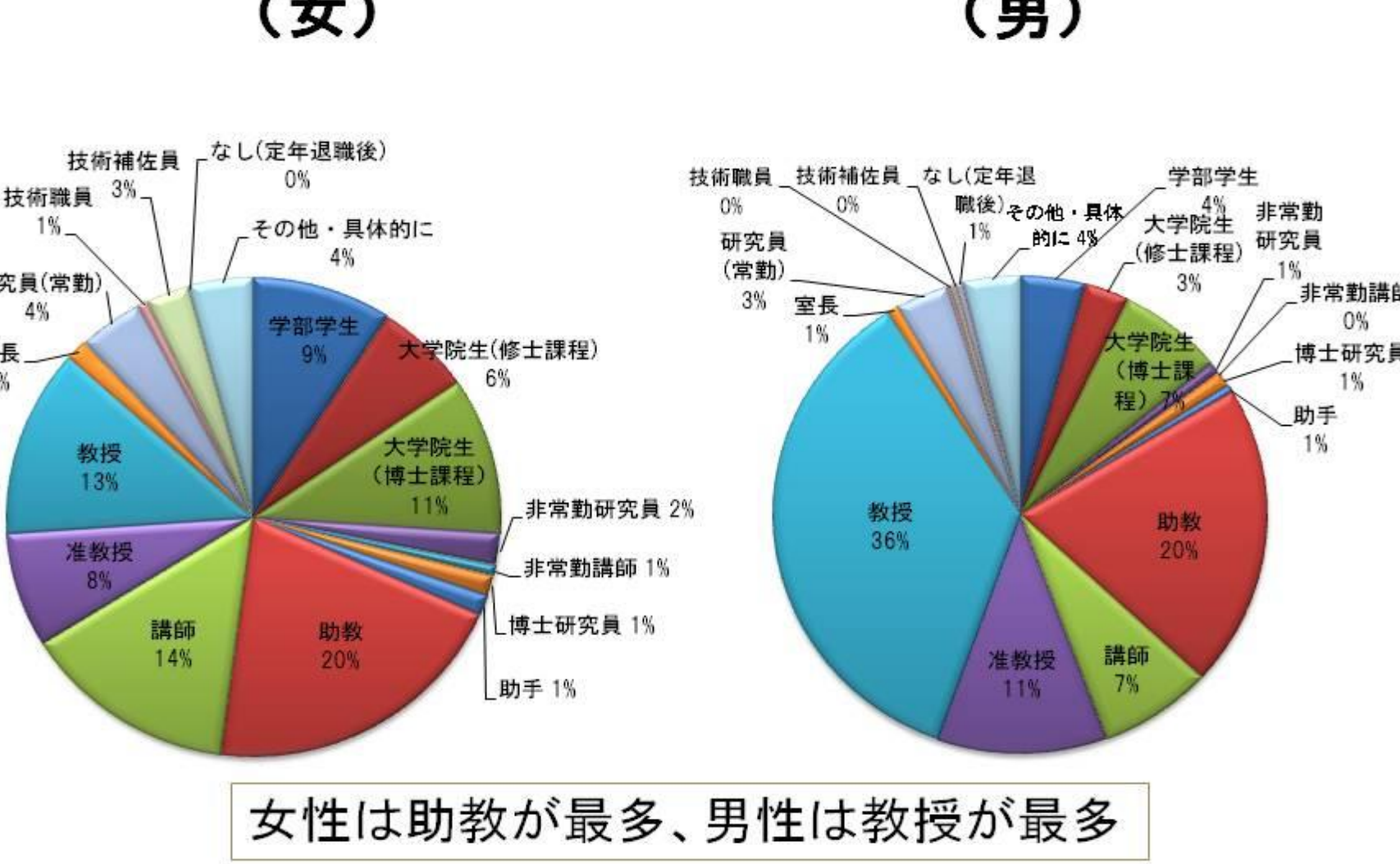
1. 所属



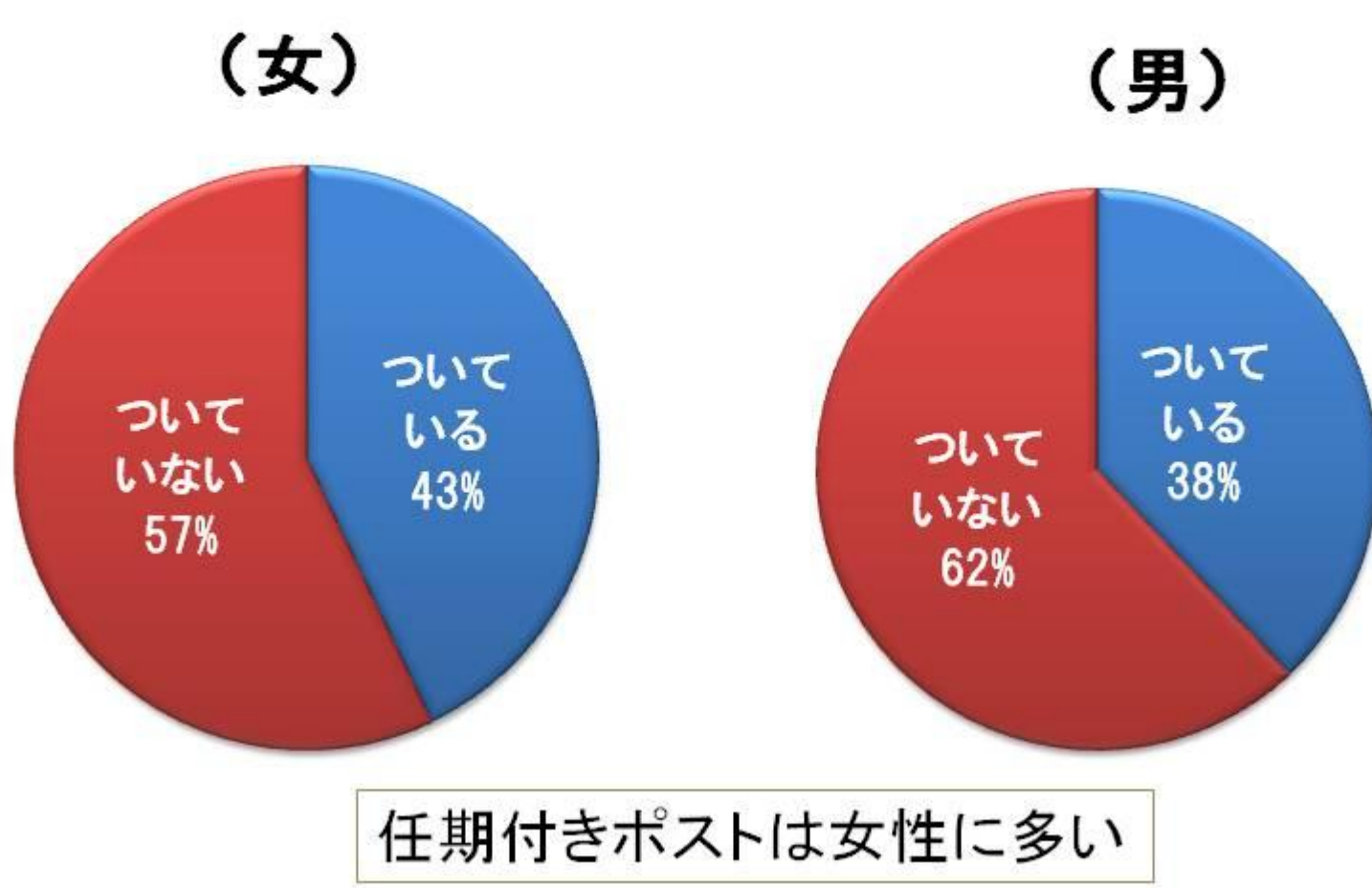
2. 所属機関



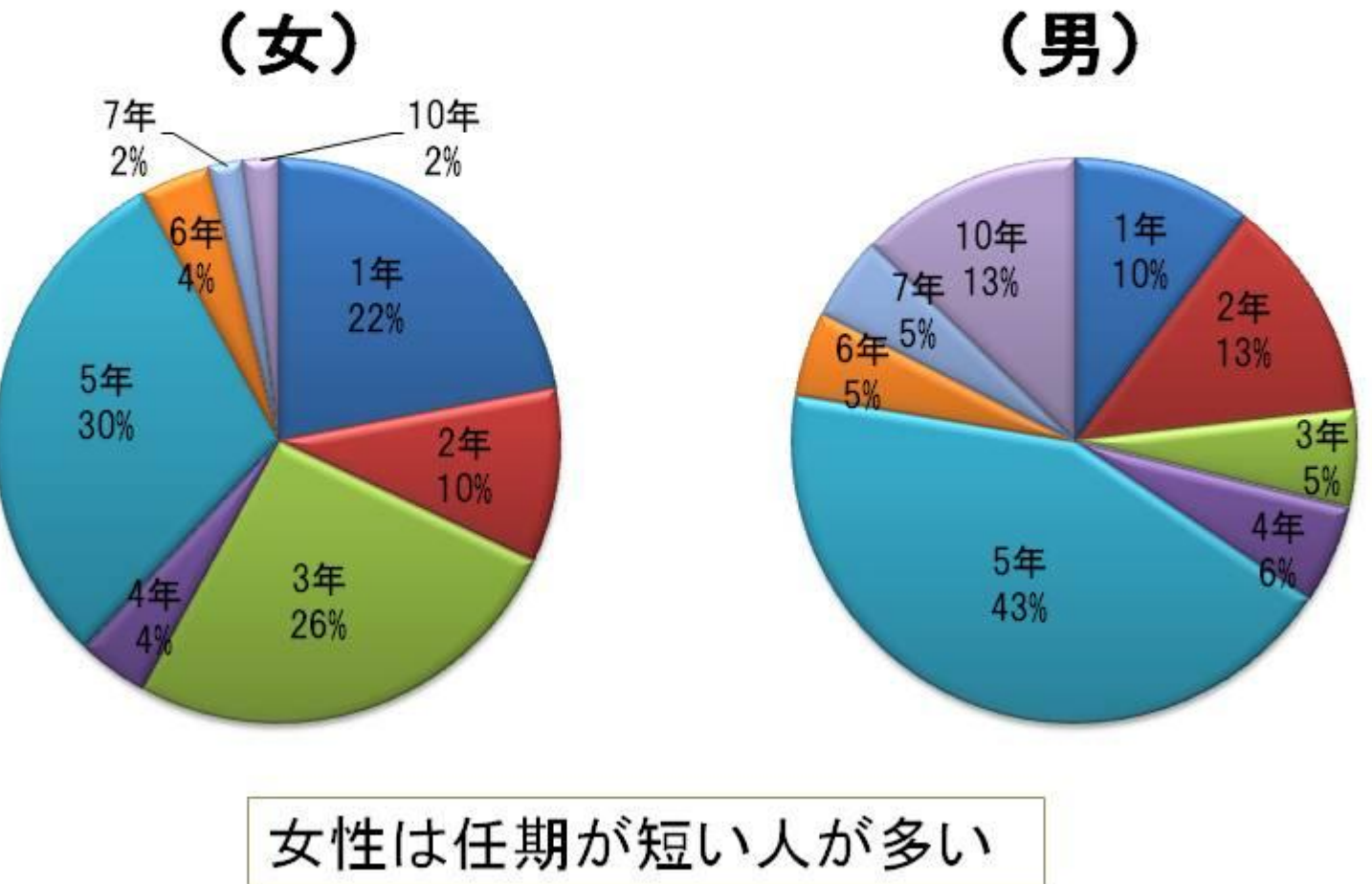
3. 身分



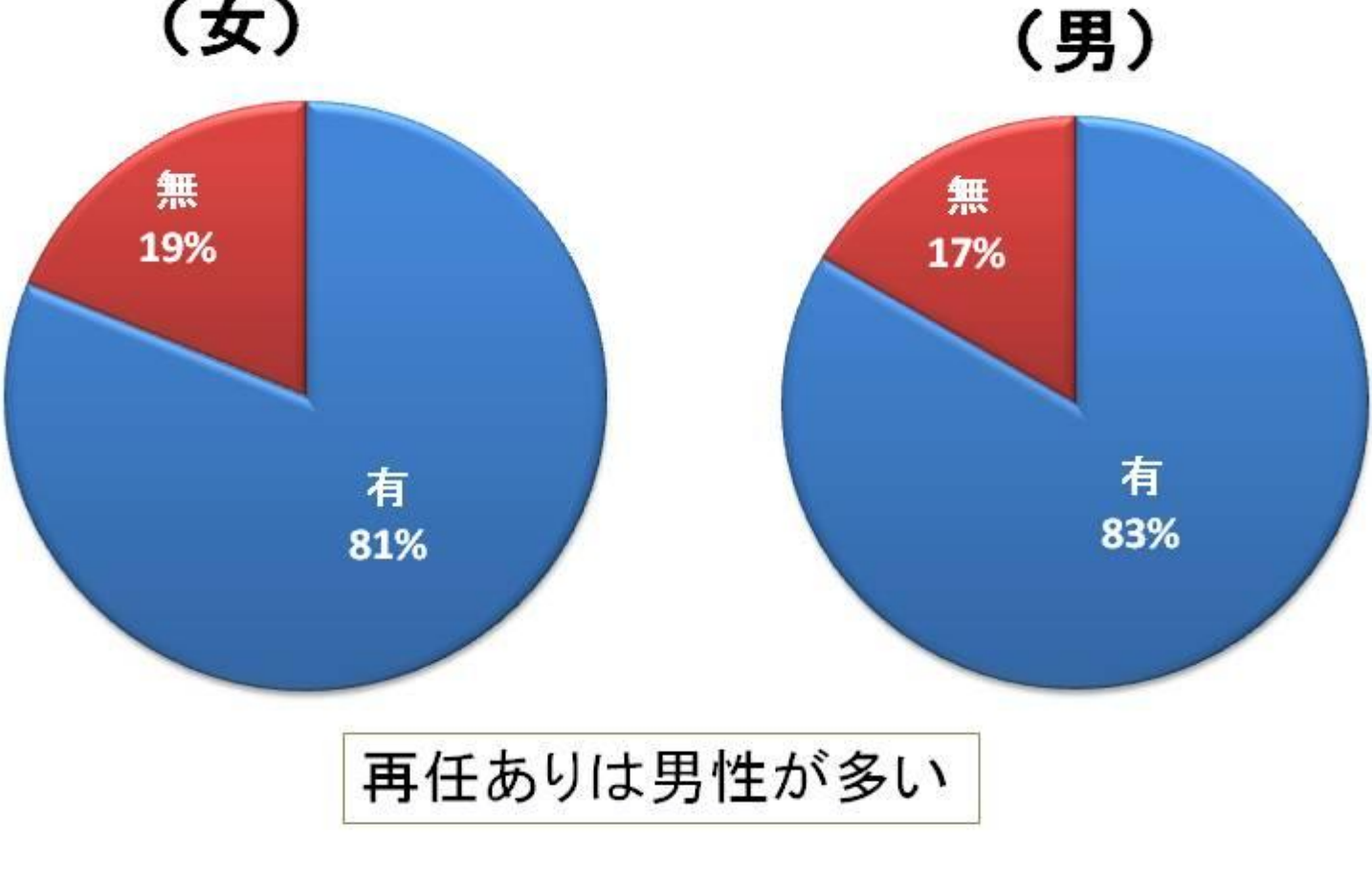
4. 任期の有無



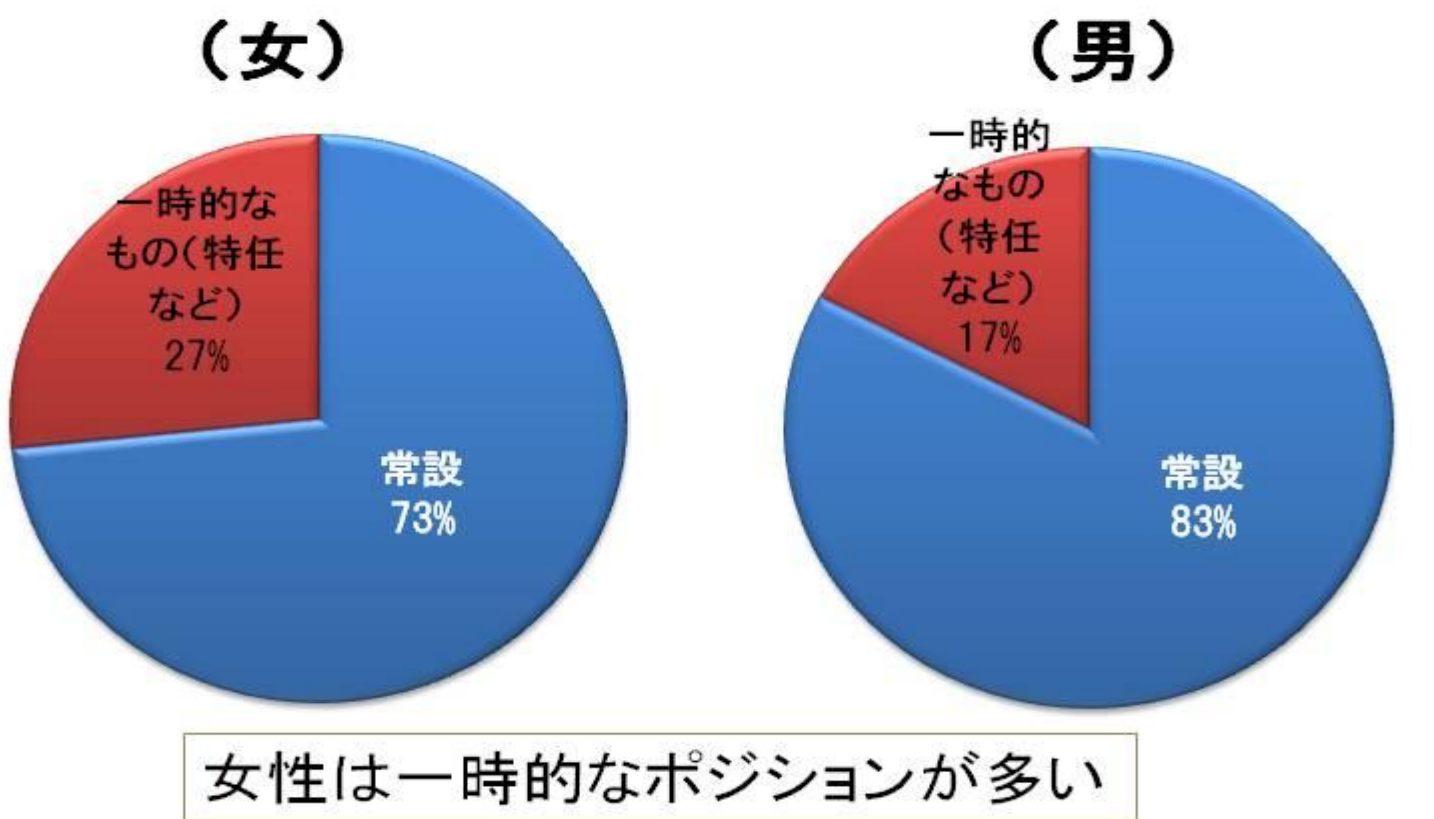
5. 任期の年数



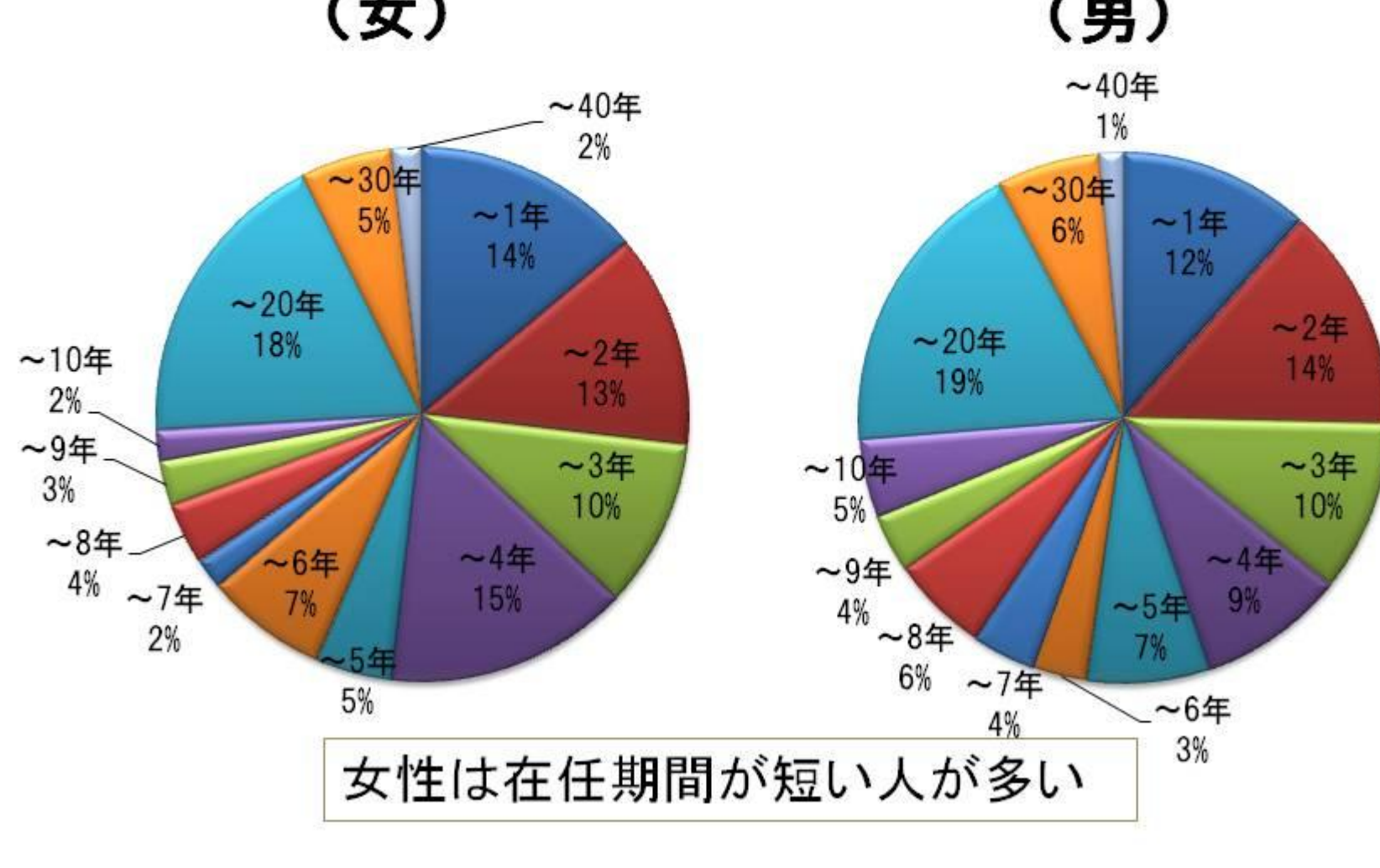
6. 再任の有無



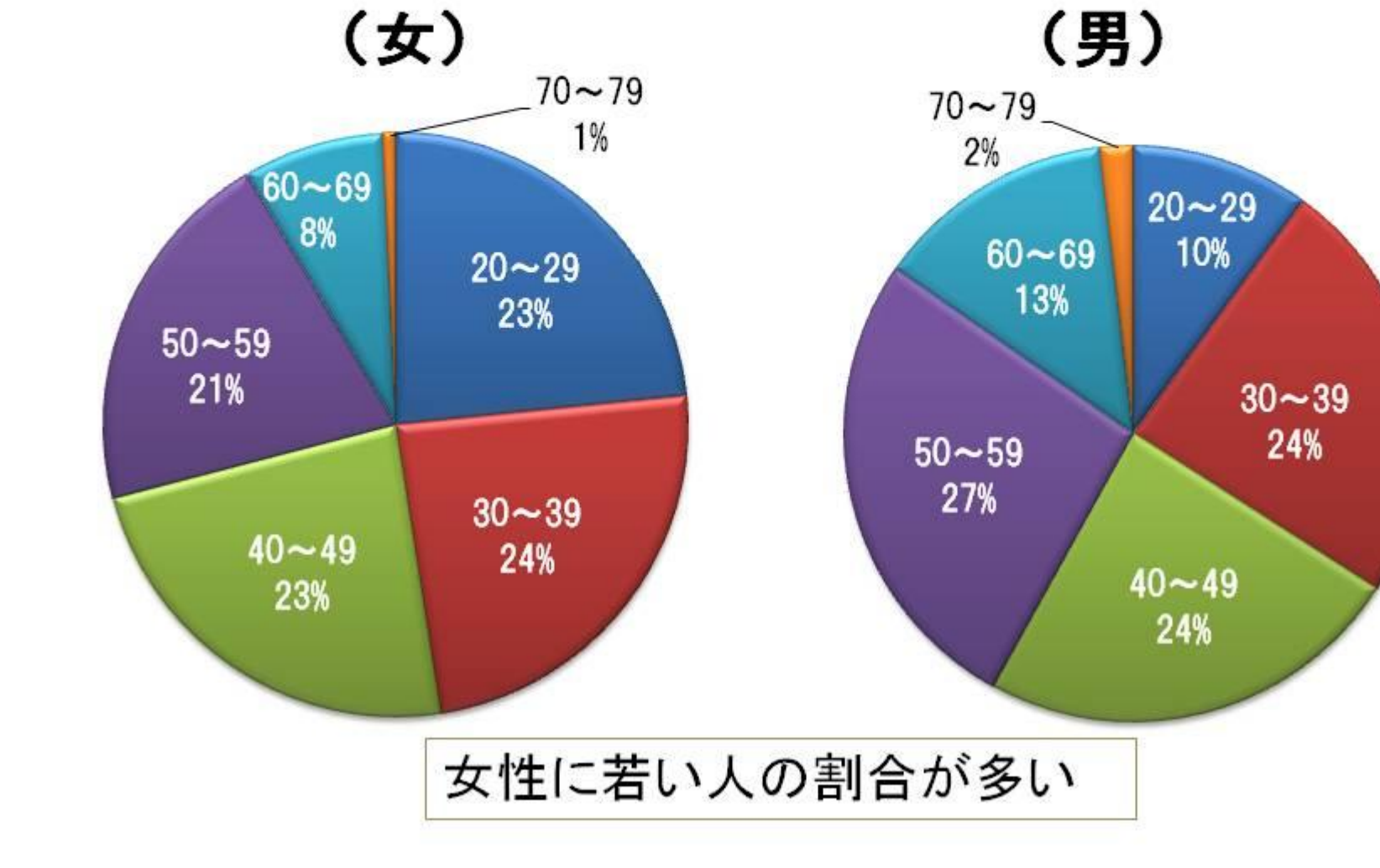
7. ポジション



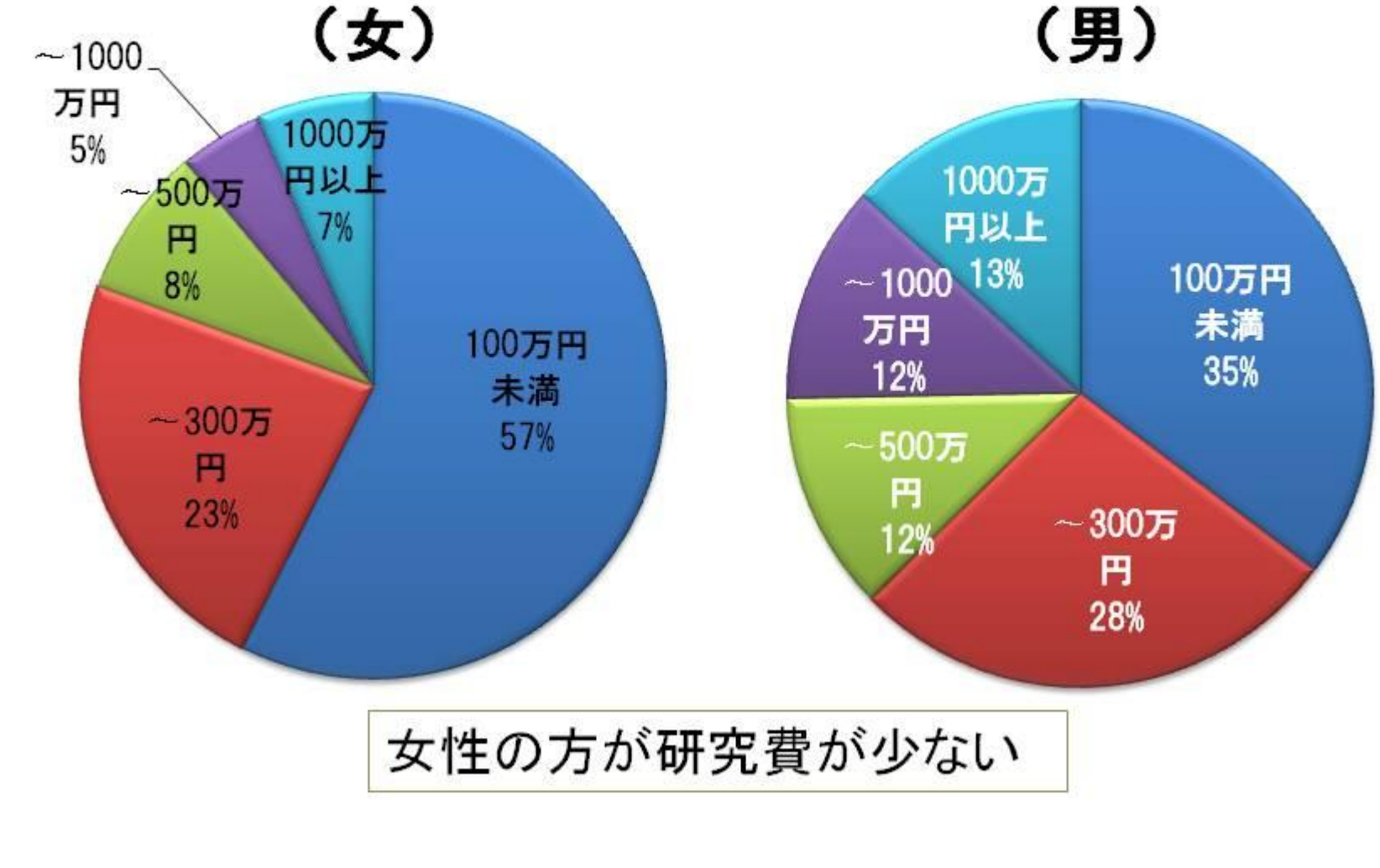
8. 在任期間



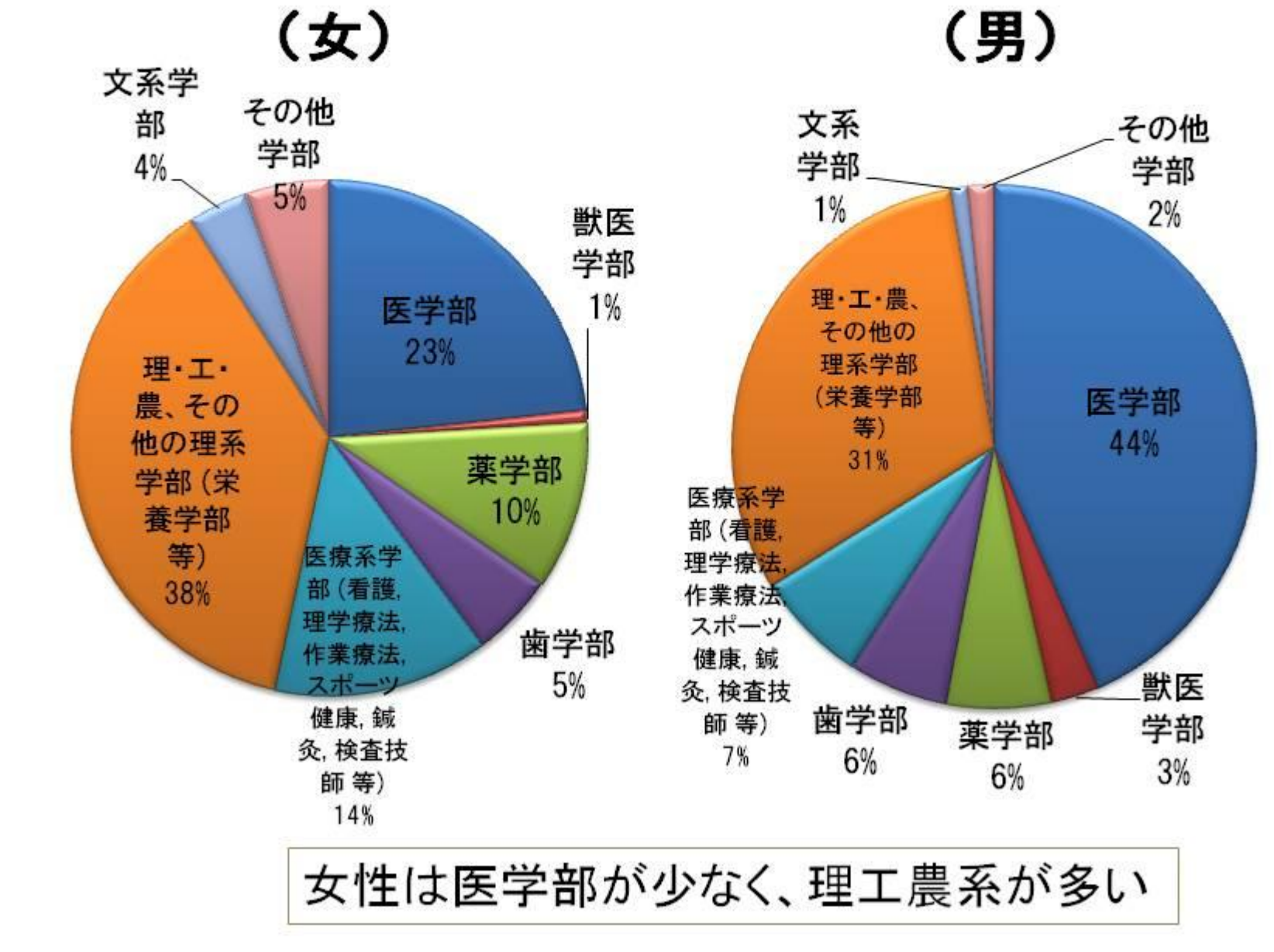
9. 年齢



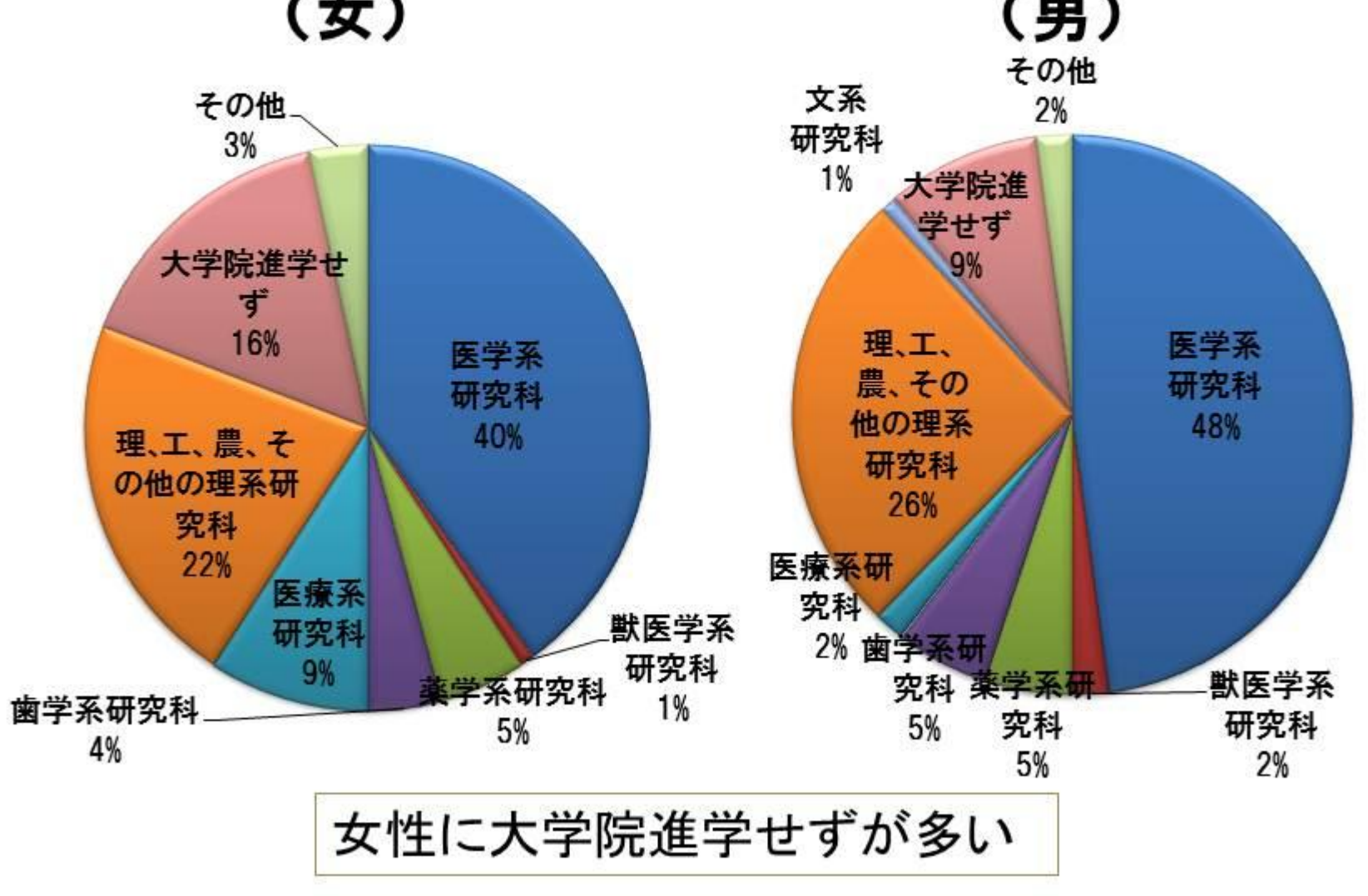
11. 2011年度研究費



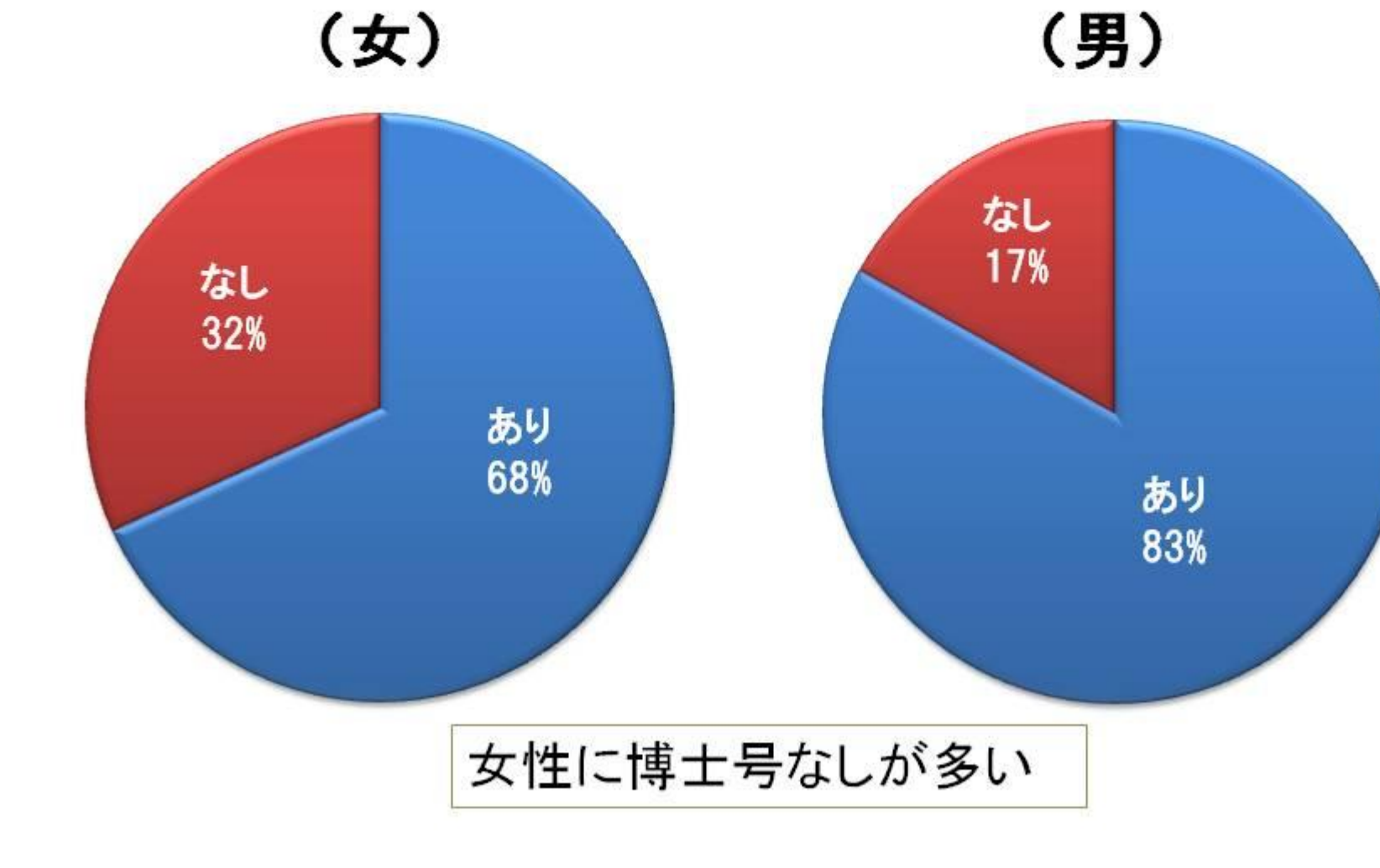
12. 出身学部



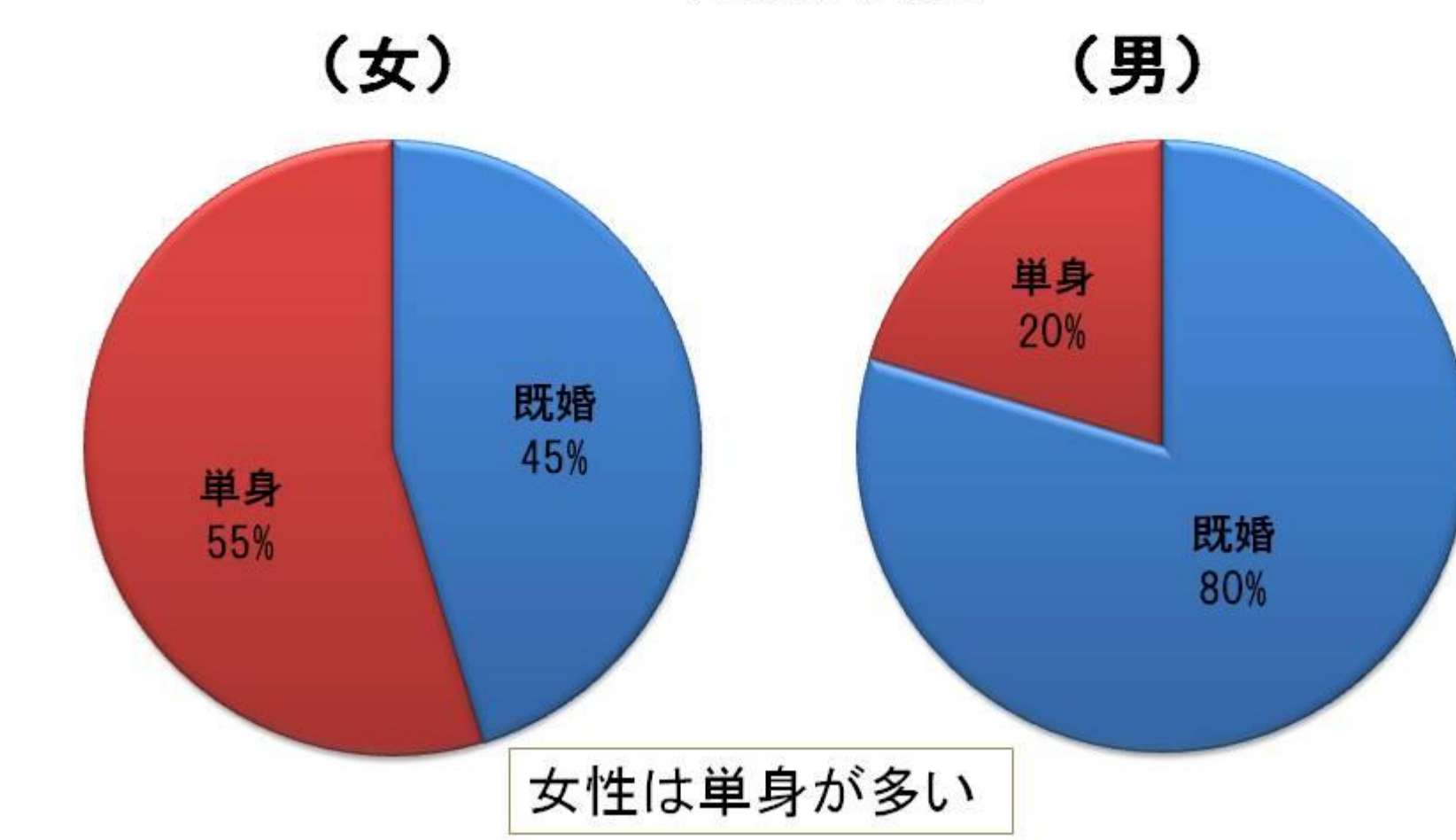
13. 出身大学院



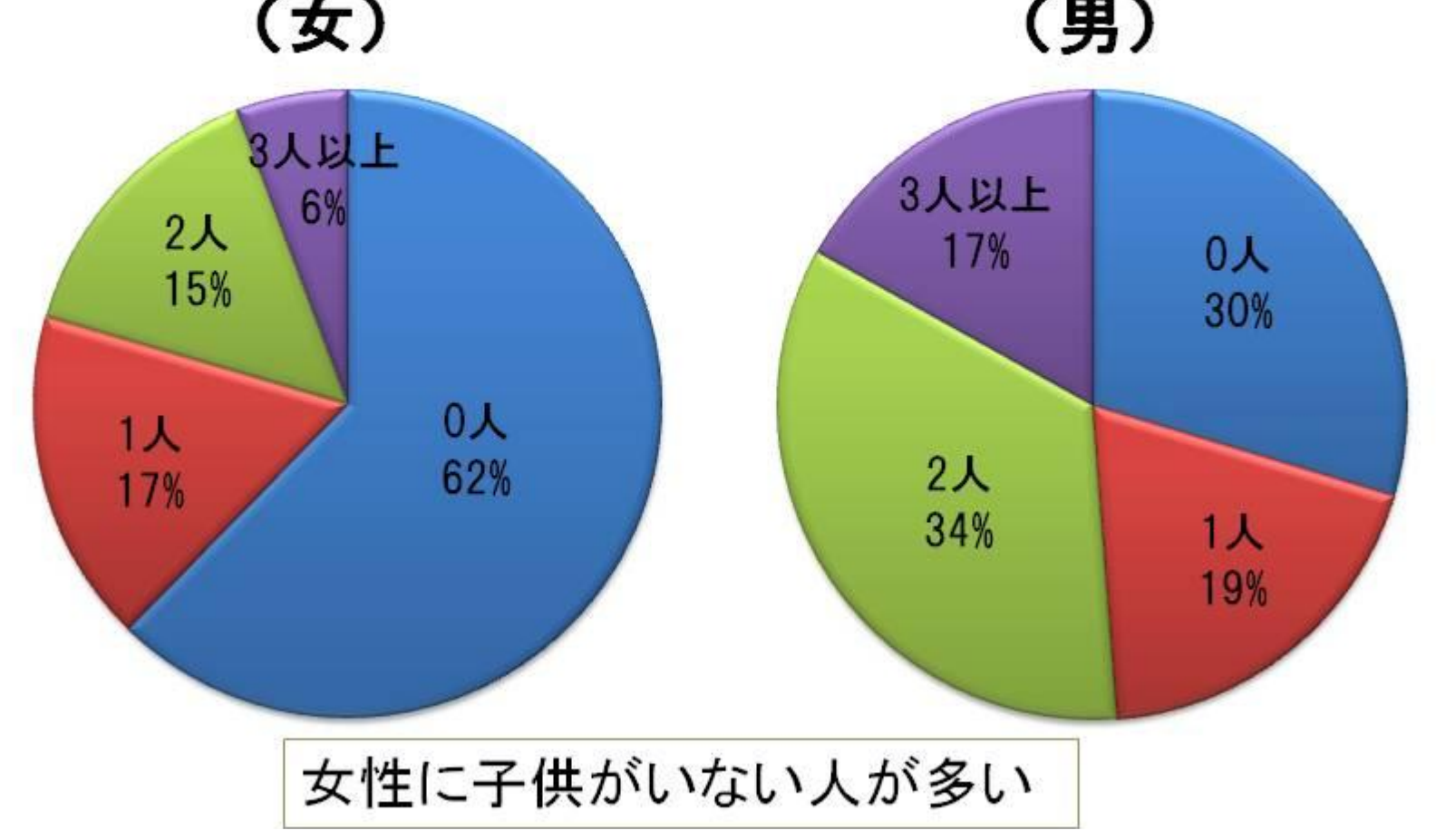
14. 博士号



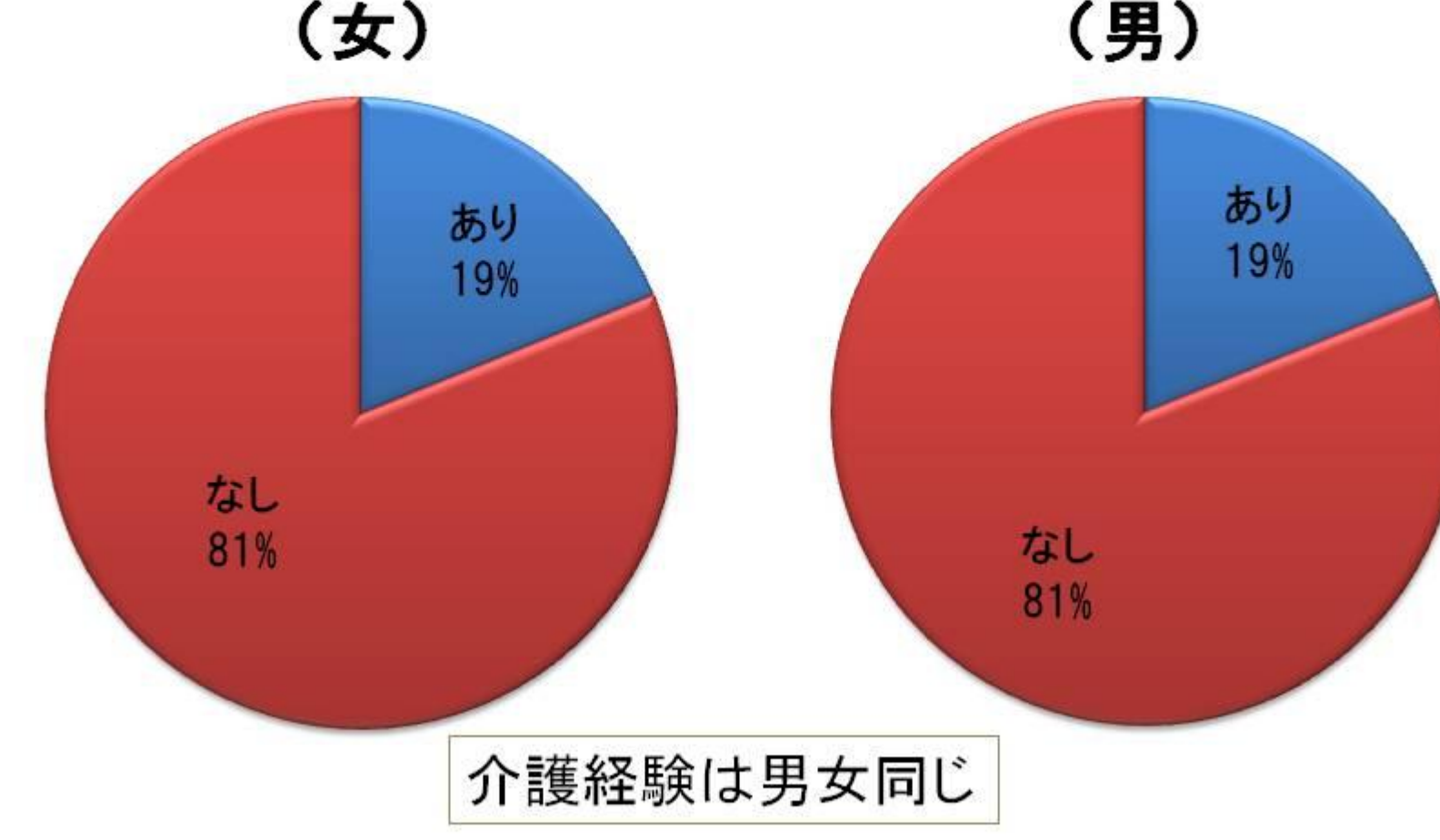
15. 婚姻状況



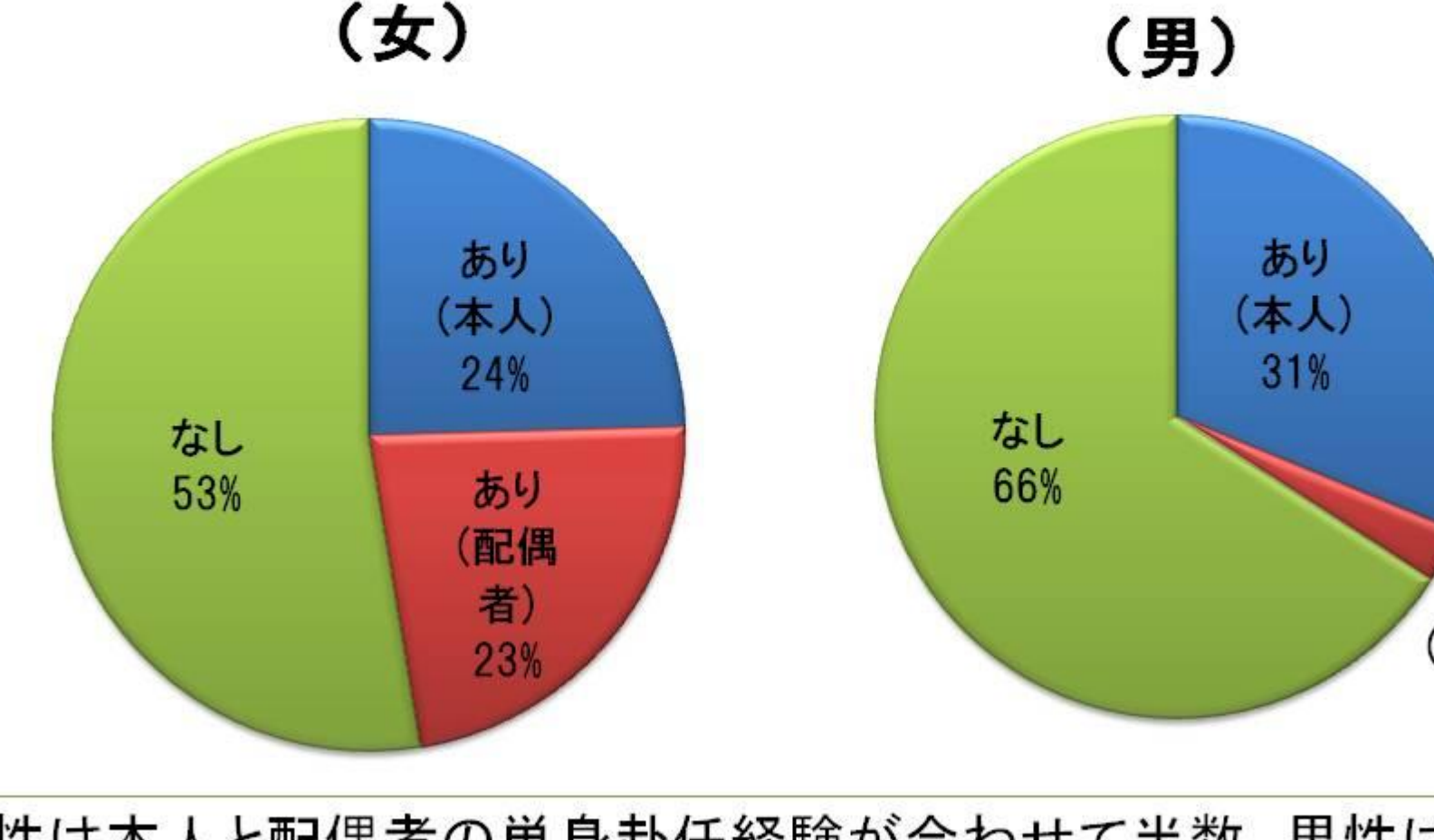
16. 子供の有無



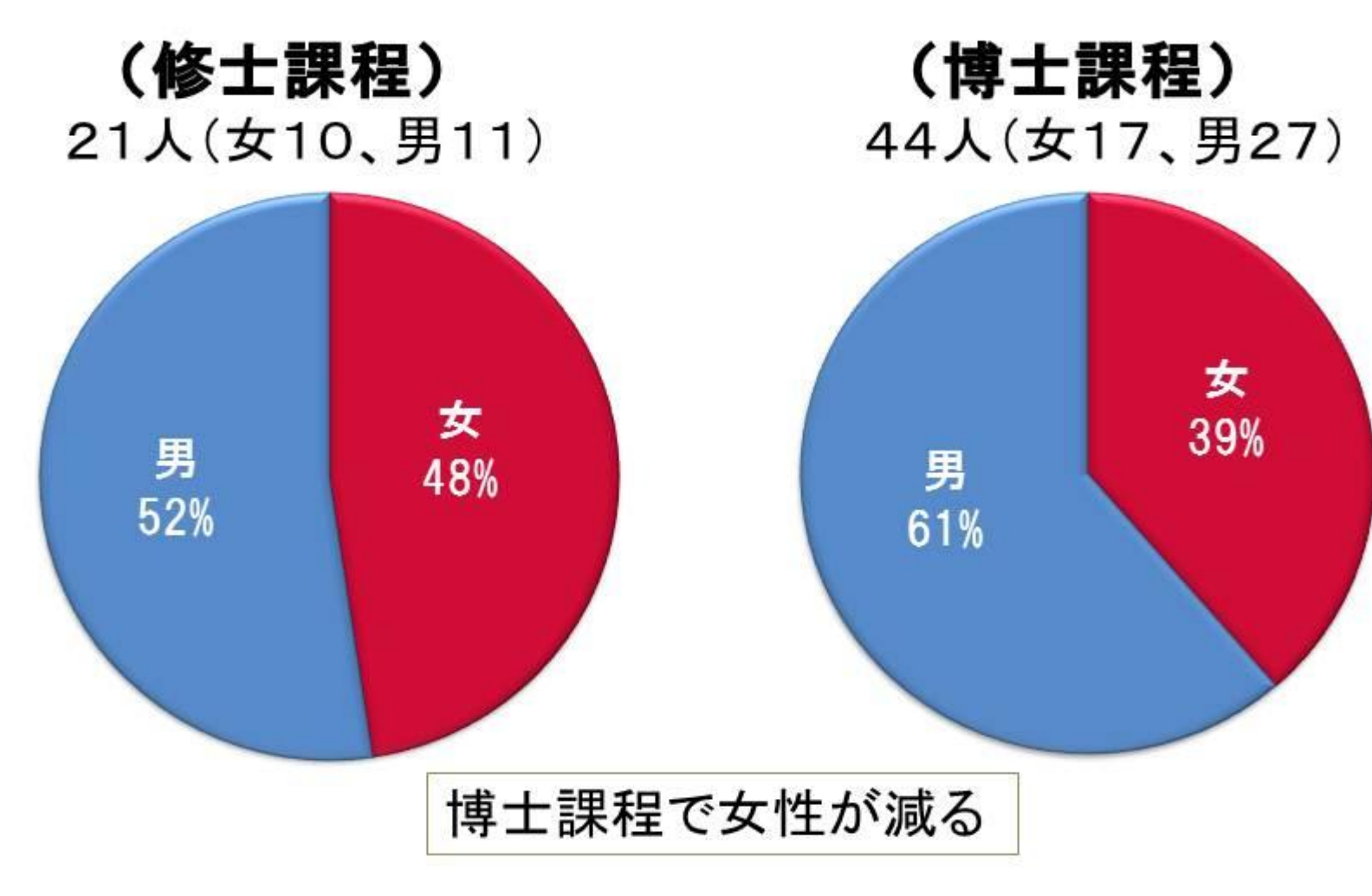
17. 介護の経験の有無



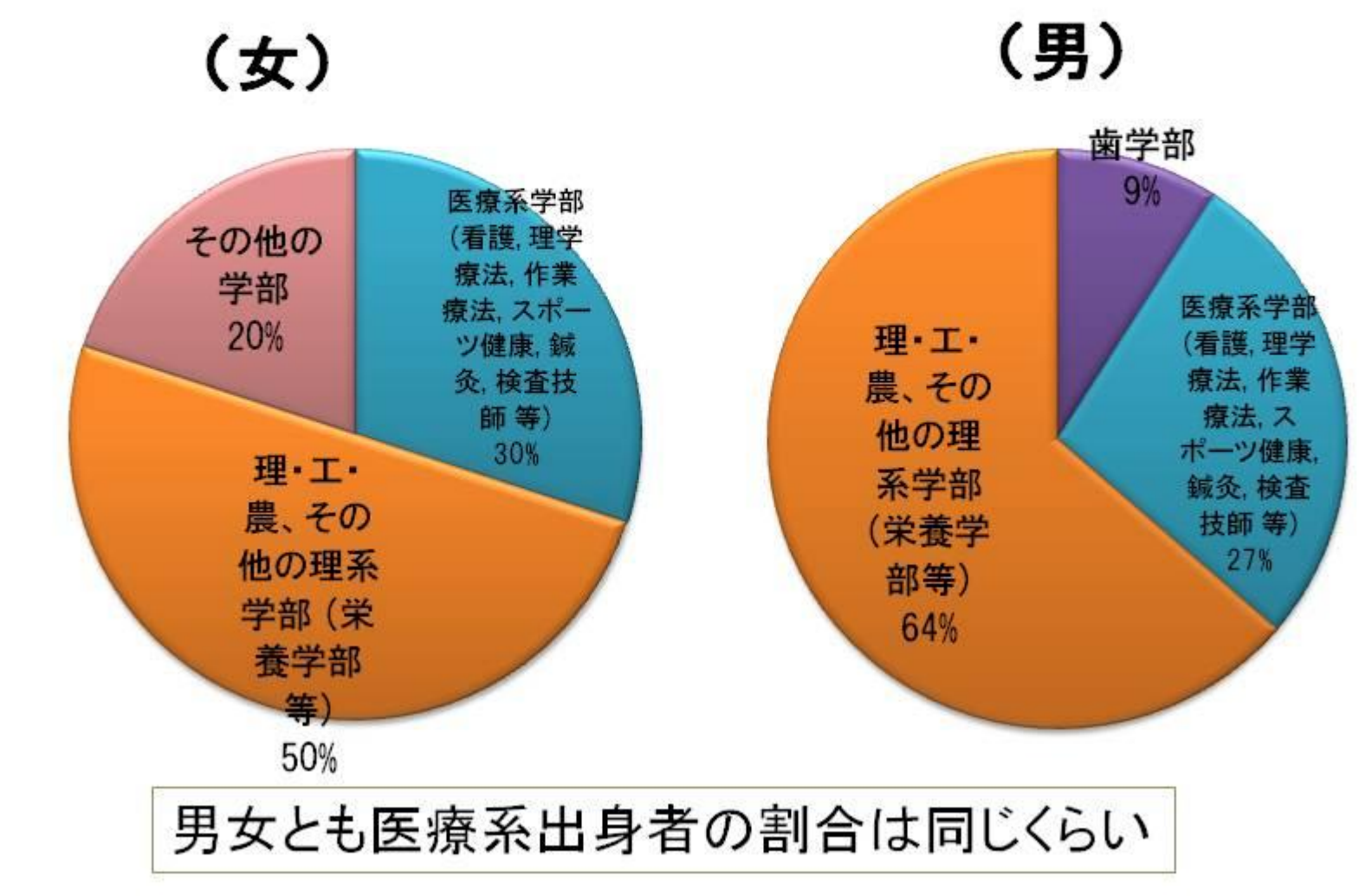
18. 単身赴任の有無



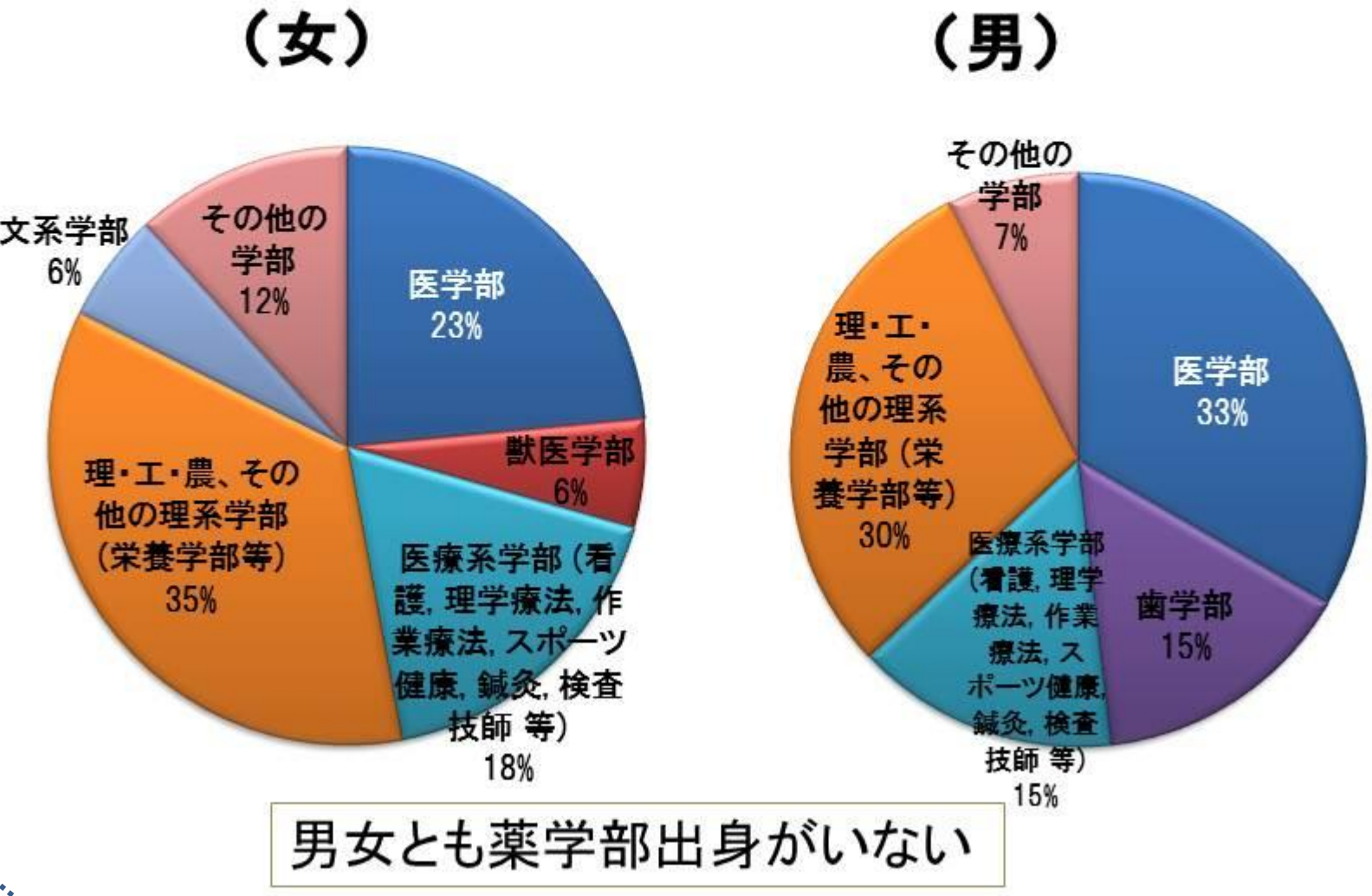
大学院生(修士・博士)の男女比



大学院生(修士課程)の出身学部



大学院生(博士課程)の出身学部



結論

本アンケート結果は、女性が男性に比べ、少人数で、身分が低く、任期付ポストが多く、任期は短く、研究費が少なく、大学院卒も少ない。つまり、**生理学分野に男女不平等が存在すること**を示している。

ただ、若い女性の割合が増えていることから、**未来に希望が感じられる。**

しかし、自由回答は、**男女不平等の認識が、女性は高いが、男性は低いこと**を示した。この男女間の認識の違いをどうすれば解決できるか、検討の必要がある。